

1 審議会名	塩田地域協議会
2 日時	平成29年10月19日(木) 午後1時30分から午後3時まで
3 会場	塩田公民館 大ホール
4 出席者	山極会長、山部副会長、阿部委員、伊藤委員、尾崎委員、工藤委員、窪田委員、甲田委員、小林委員、坂田委員、竹内(榮)委員、竹内(弘)委員、竹下委員、龍野委員、西川委員、早坂委員、林委員、本間委員、増澤委員
5 市側出席者	北沢センター長、土屋地域振興政策幹、池田係長、佐藤主査
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 無
8 会議概要作成年月日	平成29年10月23日

協議事項等

1 開会(副会長)

2 あいさつ(会長)

3 協議事項

(1) わがまち魅力アップ応援事業プレゼンテーション(新規1件)

応募団体による事業説明及び質疑応答

(2) 専門委員会の取組状況について

「地域振興委員会」

(委員会代表者) 10月12日に委員会を開催し、市へ提言する方向で進めていくことになった。内容については来月の委員会で検討する。

「地域福祉・教育委員会」

(委員会代表者) 商工業等(企業)の長野大学生の採用に関するアンケートの結果がまとまったので報告する。

アンケートは、「福祉医療関係」、「製造業」、「サービス業」、「その他」の4業種、各5社、計20社を対象に行った。回答があったのは17社で、製造業は5社中3社の回答がなかった。製造業は技術的(技術系)人材を必要とする企業が多く、長野大学には対象学生がいないため興味がなかったものと思われる。

長野大学生の雇用状況と採用の意向については、17社合計で136人の長野大学の卒業生が雇用されており、このうち業種別では福祉医療関係が56名で全体の41%を占めており、専門性を考えて採用していると思われる。次いでサービス業が48名、35%で、福祉医療関係と併せ76%占めている。長野大学生の採用については、いずれも「採用する」又は「条件が合えば採用する」と回答しており、採用には積極的である。

長野大学に対する企業側の期待としては、自立した人材(自ら考え・自ら行動できる)を送り出して欲しい、ビジネスマナー等会社の基本を身に付けさせて欲しいという回答が多かった。また、人間関係や社会との関わりに注目している企業もある。

採用したい人材、能力については、性格では「誠実、正直、素直な人」、「明るくはきはきしている人」といった回答が多かった。能力については、多くが「コミュニケーション能力」を挙げており、次いで「リーダーシップ」となっている。「専門能力」と回答した企業は少なく、採用に当たりあまり専門性を重要視していないように思われる。その他では「地域活動に積極的に関わっている人」という回答が多く、地域活動を通じてコミュニケーション能力や人間関係構築能力を高めて欲しいと思っているようである。インターシップは学生にとって企業内容が分かり、企業にとっては採用前に必要な人材なのか確認ができ、採用するに当たり互いにメリットがあると考えていたが、1社の回答しかなく、企業はあまり重要視していないようである。

長野大学生を採用するために上田市に期待することとしては、「採用する企業に対するメリットのある政策」より、「地元で就職した学生に対しメリットのある政策、子育てしやすい環境」を望んでいることがわかった。企業は良い人材を採用しても数年で辞められては困るため、従業員に定住することを望んでいるためと思われる。

長野大学生を採用するために地域住民にして欲しいこととしては、予想どおり、就職した学生が「上田市に、地域に住みたいと思えるような地域環境を作って欲しい」という回答が多く、上田市に望むことと一致している。また、地域の力を活用し、学校では学べない能力の向上にも期待をしている。等々が企業に対するアンケートの結果である。

今後は長野大学生との話し合いを計画しており、これを踏まえて市へ提言するかどうか検討していきたい。

「地域環境保全委員会」

（委員会代表者）荒廃竹林に関する自治会アンケートの結果がまとまった。また、竹粉の農業への活用については、現在実証実験を行っているので、その結果も近々まとめていきたい。

「地域安心安全委員会」

（委員会代表者）上田市への提言に向けて、上田市危機管理防災課と打合せを行う予定である。

(3)わがまち魅力アップ応援事業審査<非公開>

応募事業（新規1件）の採否を決定した。

(4)その他

なし

4 その他

- ・事務局から次回の開催日程について説明
- ・第9回塩田地域協議会は12月21日（木）午後1時30分からの予定を変更し、午後3時30分から開催する予定となった。

5 閉会（副会長）